

2012年8月

発行:(財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

## 【宮城県石巻の夏休み～子どもたちの手作り楽器と一緒に演奏～ 女子美術大学とのコラボレーション】

昨年に続き、8月7～9日の3日間、石巻市で杉並区内にある女子美術大学メディアアート、アート・表現学科の学生たち6人とのコラボレーションによる被災地支援を行ってきました。昨年からヒーリングアート表現領域のヤマザキミノリ教授は、学生とともにアートによる支援活動を石巻を定点にして展開してきました。今回のコラボレーションの内容は大人も子供も楽しめる楽器を作るワークショップをコンサートの前に行い、日本フィル弦楽四重奏との共演の場面をつくろうというもの。日本フィル演奏メンバーは、ヴァイオリン：松本克巳、坪井きらら、ヴィオラ：後藤悠仁、チェロ：大澤哲弥の4人でした。

### 【北上中学校で、となりの仮設住宅の方々へ音楽のプレゼント】

8月7日は夜の公演。会場の北上中学は北上川の下流にあり、遠く対岸には108人のうち74人が亡くなった『悲劇の学校』大川小学校がポツンと見えます。生存率2割という大川小学校周辺の釜戸地区は壊滅的な被害を受け、目に入るのは学校のみでした。

北上中学校のエントランスにあるアッセンブル・ホールは天井も高く、よく響く会場でした。前日からの夜行バスで、早く着いた女子美術大学の学生たちは、楽器づくりの材料を並べ、準備万端、学校の横にある仮設住宅に出向き、子どもたちに声かけを行っていました。参加して来た子どもは6名、プラスチックカップや紙皿を使い、太鼓・ギロなどを、お姉さんたちと一緒に作り上げました。カルテットに合わせて「さんぽ」で入場、コンサートは子どもたちとの共演で始まりました。演奏曲目は、バルトーク「子どものために」より5つの断章、「荒城の月」、アメリカ民謡「峠の我が家」「シンドラーのリスト」、ハイドン「皇帝」など。仮設住宅からの参加者と、この日に合わせて11時間かけてバス2台でやってきた、愛知県岡崎市立城北中学校のオーケストラ部の生徒たちと引率の先生なども参加し、約100名の方が演奏に聴き入りました。



### 【岡崎市立城北中学校のオーケストラ部と共に演奏しました】



翌日8日、日本フィルメンバーは朝9時半に北上中学校へ。10時半からの城北中学校オーケストラ部との共演に備えました。同校オーケストラ部(31名、他に生徒会11名、引率者入れて総勢57名)は、前日に大川小学校前で追悼演奏を行い、北上中学校に到着しました。8日朝、生徒たちは岡崎の名産品を持って学校に隣接する「にっこりサンパーク応急仮設住宅」の1軒1軒を戸別訪問し、被災された方に直接声をかけ、コンサートへの勧誘を行いました。城北中学校の校長先生の生徒たちへの信頼の上に行われた「体験教育」に、私たちは強い共感を覚えました。

コンサートは体育館で行われ、日本フィルの4人のメンバーは生徒たちのアンサンブルに加わり、ブランデンブルク協奏曲第3番や「パイレーツ・オブ・カリビアン」メドレーなどを一緒に演奏しました。仮設住宅から車椅子で来られた高齢者の方や子ども連れのお母さんなど、約200名の方々が弦楽アンサンブルを堪能しました。演奏のレベルは高く、生徒たちの意識の高さ、意欲の高さを実感しました。

北上中学校の畠山校長先生の、「震災の日、たまたま卒業式が長引いて、この学校からは生徒の犠牲者を一人も出さなかった。だから自分は元気でいられる。いいものに触れることのできるあらゆる機会を受け入れ、地域の人たちと共有して行きたい」と語る言葉が、私たちの胸に迫りました。

